

インプラントプラットフォーム拡大のための エビデンスベースの骨移植・骨再生：

骨量増加のための骨増生治療に現在使用されている
治療法と材料のレビュー

—第64回日本口腔外科学会総会・学術大会での
Osteo Science Foundationによる講演—

講演者：Jay P. Malmquist, DMD

2019年10月27日（日） | 8:45 am~11:45 am | 会場：札幌コンベンションセンター1階第3会場（中ホール）
2分画A（240人収容）



Jay P. Malmquist, DMDはオレゴン州ポートランドの口腔外科開業医。オレゴン大学および同大学歯学部卒業。米国海軍でローテーションインターン研修、オレゴン健康科学大学口腔外科でレジデンス研修を修了。現在、米国口腔外科評議委員会では外交担当を務め、また専門医認定委員を7年間務めている。米国口腔外科学会では、かつて財務部長および会長を歴任した。インプラント外科と移植に関する数多くの書籍の共同執筆者であり、また骨再生に関する基礎研究を含め、骨移植と組織再生について多くの論文を発表している。インプラント埋入、骨移植、および骨タンパク質とさまざまな血液改質因子に関して、国内外で数多くの講演を行っている。査読を伴うインプラント外科論文誌数誌で査読者を務めており、現在Foundation for Oral Rehabilitation会長を務める。またOsteo Science Foundationの元会長・現役員であり、現在Academy of Osseointegrationのプレジデントも務める。

この講演では、デンタルインプラントが必要な患者治療のための骨増生における現在のトレンドに焦点を合わせます。また、骨移植に関連する合併症のシステムティックレビューも取り上げます。硬組織・軟組織両方における同種異系材料の利点について説明し、3D構築コラーゲンなどの新材料も紹介します。血液改質因子と骨タンパク質の利用など、画期的なソリューションについて検討します。文献を使用して、いくつかの治療法の結果が解説されます。一部の治療レジメンにおける選択肢についても説明されます。この講演では、歯槽ネットワークの新しいコンセプトを紹介し、これが特に生物学的ライアビリティにおいて重要であることを示します。

講演の目的：

- 1 現在の治療に使用されている移植と材料の歴史的な経緯をレビューする
- 2 骨移植モダリティと新しい技術的考慮事項の概要を形成する
- 3 審美的考慮事項に関係する治療ワークフローをレビューする

このプログラムは英語で行われます。追加の参加費は不要です。

Osteo Science Foundationは、頭部口腔外科分野の硬組織・軟組織再生治療の進歩を使命としています。Osteo Science FoundationはDr. Peter Geistlichにより2013年に設立され、患者の治療結果改善をもたらす先進科学研究・教育に取り組んでいます。